idea

ニュースレター「イデア」

2019.5

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

1｜二言三言｜　猪狩り名人　小岩広昭さん
3｜団体紹介｜　いちのせきニューツーリズム協議会
5｜地域紹介｜　泉沢自治会（川崎）
7｜企業紹介｜　株式会社丸光製麺（藤沢）
8｜博識杜のフクロウ博士｜　いま、なぜ　まちづくりなのか？
9｜センターの自由研究｜　「巨樹」探訪　vol.1

今月の表紙

こちらは室根町にある太さ6．8mにもなるイトヒバの木です。
今月の「センターの自由研究」では、市内各地にある巨樹を調査！
太さ順にランキング付けし、全国順位との比較などをご紹介しています。

二言三言

130/116,367

小岩広昭

昭和 26 年生まれ。山目地区在住。父親が農家の傍らで競走馬の育成をしており、生まれた時から動物が身近な環境で育つ。動物が好きで、子どもの頃から親族の狩猟を手伝ってきたこともあり、昭和 51 年（25 歳の頃で結婚直後）に狩猟免許を取得。現在は「西磐井猟友会」の副会長を務め、猪の捕獲数は西磐井地域でトップクラスの実力。

第59回　猪狩り名人 小岩広昭さん × いちのせき市民活動センター 主任 佐々木牧恵

有害鳥獣駆除の現場と対策
～猪の生態と市民や地域でできること～

近年、市内では田畑を猪に荒らされる被害が増えてきておりますが、なぜ猪が一関市にも生息するようになったのか、なぜ猪が増えているのかといった疑問を、「猪狩り名人」の小岩さんに伺いました。

佐々木　猪は元々岩手県にはおらず、北上してきていると聞きました。今の北限は一関ですか？

小岩　いえ、今は八幡平市付近でも目撃情報があります。本当は岩手の玄関口である一関市で食い止めなければならなかったのですが、「猪を増やさない」対策よりも、電気牧柵への補助など「被害を減らす」対策の方が優先された結果、猪は増加する一方という現状です。

佐々木　「猪を増やさない対策」ということですが、猪はどれほどのペースで増え、そのうちどれほど捕獲できるものなのでしょう？

小岩　私の場合、直近ですと一昨年の11月～去年の11月までの1年間の捕獲数は10頭でしたが、去年の11月～今年の3月までの5か月間で、既に25～26頭も捕まえています。それくらい頭数が増えているということなのでしょう。猪は1歳半で性成熟に達し、多くのメスは2歳程度で初産を迎えるそうです。1年で5～6頭を産むほど繁殖力が高いため、本当に増える一方です。

佐々木　それは大変ですね…。確かに電気牧柵では違う畑に逃げていくだけで、むしろ被害が拡大するようなものですから、「猪を減らす」という根本的な対策が必要ですよね。実は、私の家の畑も猪に掘られたことがあります。猪は何を目的に畑を掘るのでしょうか？

小岩　猪は餌のミミズを探して穴を掘ります。田植えをしたばかりの水田を掘ることもあり、農家は本当に困っています。1m以上の深い穴を掘る時もありますよ。猪は栗駒市の岩ケ崎方面から山伝いに北上しているようですので、市内では萩荘や厳美での被害件数が多く、さらに蘭梅山や平泉方面にも出没しています。罠のワイヤーをちぎって逃げる猪もおり、力がかなり強いので注意が必要です。

佐々木　なるほど。そうすると東磐井地域にも今後広がっていく可能性がありますが、猪の捕獲が追いつかない背景には何があるのでしょうか？

小岩　猪は有害鳥獣対象なので、猟期に関係なく1年中捕獲でき、駆除すれば1頭につき国と市から合わせて約1万円の報奨金がでます。しかし捕獲罠を仕掛けると原則毎日様子を見に行かなくてはなりません。私も1日80㎞くらいは走りますが、毎日獲れるわけではないので燃料代の方が高くつき、報奨金だけでは割に合わないのが実情です。それに捕獲した後の処理も大変。市に証拠として提出する尻尾をとり、写真を撮った後、1袋10㎏に収まるよう解体して狐禅寺の焼却場に運ばなければならないので、腐食の早い夏場などはかなり辛いです。ほぼボランティアのような状況でそうした作業をしなければならないので、有害鳥獣駆除に積極的に参加しないハンターが多いです。

佐々木　そのような現状とは全く知りませんでした。例えば地域で猟友会の方を雇ったり、ハンターを生業にできるような仕組みを作れないものでしょうか？

小岩　全国で見れば給料制度でやっているところもあるし、セコムなどの警備会社と連動してパトロールの負担を軽減している事例もあるようです。市内でも厳美の本寺地区では、中山間地の補助金で地域の人が罠の免許をとり、実際に箱罠を仕掛け始めていますよ。

佐々木　箱罠の免許は簡単にとれるものなんですか？

小岩　1回の事前講習を受けてから試験で合格すれば。誰でも簡単にとれますよ。ただ、猪は神経質で警戒心が強く、嗅覚もかなり優れているので実際の捕獲はそう簡単ではありません。初めての方は1～2年勉強してからでないと難しいでしょう。猪の行動パターンなどを把握し、常に工夫し続けなければ1年に1頭も捕獲できないケースも珍しくありません。

佐々木　そうすると、対策を考えている地域は早めに動き出すべきなのでしょうね。何か市民レベルでできることはないでしょうか？

小岩　被害にあったらすぐに声をあげることです。市から委託された猟友会のメンバーで有害鳥獣駆除実施隊を組織していますが、基本的には被害報告を元に駆除するため、市の担当課（農地林務課）か猟友会に連絡いただきたいです。場所が「保護区」や「銃猟禁止区域」だと原則は捕ることができませんが、被害状況によっては駆除の許可が下りることがありますので、保護区だからといって諦めずに連絡いただければと思います。

佐々木　我が家もつい畑を「守る」ための柵などにばかり頭がいっていましたが、被害をきちんと報告すべきだったんですね。今後は少しでも猪が出た形跡があれば連絡します！

小岩　そうですね。市に連絡いただければ猟友会に繋いでくれます。市民の方が声を上げることで、猟友会は動けるのです。依頼をした市民の方はお金がかかりません。

佐々木　ここまで、有害鳥獣駆除の面ばかり聞いてきましたが、そもそも狩猟は「趣味」の一つかと思います。狩猟の「本来の魅力」とは何でしょうか？

小岩　私は狩猟犬と一緒に山を歩き、キジなどを誘導させて鉄砲で撃つのがハンティングの最高の魅力だと思います。最近は犬と一緒に猟に出る人が減ってしまっていますが、それが狩猟の原点だと思います。川でカモを撃てば、落ちたカモを咥えて主の所まで持ってくる姿が何とも可愛いものです。もちろん撃つこと自体が楽しいですし、北海道などの雄大なスケールの場所で、巨大なエゾジカを仕留めた時は本当に気持ち良いです。

佐々木　犬との猟が魅力！それは盲点でした。てっきり捕った動物の肉を食べることが狩猟の楽しみかと思っていました。

小岩　昔は鹿肉が貴重でしたので、捕った鹿の肉を皆で分けて美味しく食べたものですが、最近では飽きてしまい、周りで「肉が欲しい」という方がいなければ全て焼却処分していますよ（笑）

佐々木　本来の醍醐味は犬とのコミュニケーションということで、ようやく動物好きの小岩さんが狩猟をするということに納得できました。有害鳥獣駆除が嫌でハンターを辞める人もいるそうですし、ハンターさんが本来の楽しみを全うしながら、それらにも進んで協力していただけるような仕組みを地域としても考えたいですね。

被害があった際の連絡先

市役所　農地林務課（0191-21-8195）
西磐猟友会　事務局（0191-82-1322）

「田舎」を最大限に魅せる・売り出す

いちのせきニューツーリズム協議会

いちのせきニューツーリズム協議会
平成23年3月設立。教育旅行をはじめとする農村体験の機会を提供する窓口として活動している。
〒029-3105　一関市花泉町涌津一ノ町29
一関市役所花泉支所3階
TEL　0191-82-3111
左の写真：田植え作業を体験する教育旅行で来訪した子どもたち。

普段の「暮らし」の「体験」化

「着地型観光」とも表現される「ツーリズム」。高度経済成長期以降に巻き起こった「レジャーブーム」とともに、旅行会社などの「出発地側」がパッケージ化した団体旅行商品が普及しました。大型バスでのツアー旅行等が人気になりますが、家庭への自動車の普及が進むと、個人や家族をベースとした旅行の割合も増加。ニーズの多様化とともに、観光の形態もまた変化していきました。

そんな中で、需要が高まっていったのが農山漁村地域において自然や文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動である「グリーン・ツーリズム」です。平成4年に農林水産省に研究会が設置され普及が始まります。これまでの旅行商品と異なり、「着地側」の地域特性を活かしやすいことから、地域活性化につながるものと期待され、各地で導入されていきました。

その後、健康増進・健康回復を目的とした「ヘルスツーリズム」、自然・歴史・文化など地域固有の資源を活かしながら、それらの適切な保護・保全をはかる「エコツーリズム」など、様々な「テーマ型観光」が登場。物見遊山的な観光旅行に対し、それらテーマ性が強く、体験や交流の要素を取り入れた形態の旅行を、観光庁が平成19年に「ニューツーリズム」と表現し、より一層推進されるようになりました。

そして平成23年3月、地域資源を活かした教育旅行及び着地型観光による交流人口の拡大と、それによる地域活性化を目指し、「いちのせきニューツーリズム協議会」が誕生。

今回は発足当初から同協議会の会長を務める後藤定幸さんに、会の取り組みや現状、活動の魅力についてお伺いしました。

グリーン・ツーリズムの可能性を広げる

同会の事業の中心となっている

gallery -

感動のおわかれ
1泊2日が多い教育旅行ですが、短時間とはいえお別れの際は寂しいもの。時には手紙をもらったり、思い出をかみしめます。

民泊拠点またきたい
市内滝沢にオープンした「またきたい」は昔ながらの一軒家。庭にはヤギがおり、来訪者を癒しています。

のが「教育旅行」の受入れです。中学・高校の修学旅行をはじめ、各種研修旅行などの窓口となり、来訪者に体験メニューを提供したり、宿泊先となる受入れ農家を調整します。

後藤さんは会長でありながら、自らも受入れ農家として来訪者を迎えています。受入れ農家歴は13年。というのも、後藤さんは同会の発足以前から、「花泉町グリーン・ツーリズム推進協議会」の一員として受入れを行っていました。平成23年当時、両磐地域には約10の受入れ団体がありましたが、それらの窓口を一本化することで、より広く受入れができるようにと発足したのが「いちのせきニューツーリズム協議会」なのです。その過程では、内部体制の構築や、方向性の統一に時間がかかったそうで、後藤さんは現状を「種をまいて、ようやく芽が出てきたような状態」と表現します。近年は受入れ農家同士の交流会なども企画し、受入れ農家自身が積極的に事業に関わってくるような機運づくりにも力を注いでいます。

「体験」「交流」が生み出すもの

教育旅行とは別に、個人等に向けた「農泊（民泊）体験」にも力を注いでいる同会では、平成30年9月に民泊施設として「またきたい」をオープンさせました。民泊新法の施行に伴い、一関市滝沢に空き家を借り、同会職員が「隊長」として同施設で暮らしながら、宿泊者を受入れています。オープンから半年で延べ70人程が宿泊しているとのことで滑り出しは上々。

教育旅行も含め、こうした旅館やホテルではなく、民家に宿泊するという体験は、「人と人との関わり」であり「迎えてくれる人がいる」ということに意味があると後藤さんは言います。「昔は〝教え語り〟と言って、家の仕事を手伝う中で祖父母等から〝やり方〟だけでなく〝知恵〟とか〝善悪〟を教えられたんだ。農泊にはそういう要素があるし、他の家庭で言われたことは不思議とずっと残る」さらに受入れ農家の魅力としては「奥さんとの会話が生まれることかな。共通の話題ができる」と、笑いながらも現実味ある回答が！

来訪者にも受入れ側にも〝刺激〟を創り出す「ニューツーリズム」。現在約１００戸の受入れ農家数を１５０戸程に拡大することができれば、３００人規模の学校も受入れることができるようになるとのことで（現在の戸数では２００人程が限界で、大規模校の受入れが難しい）、受入れ農家を常時募集しています。非農家でも受入れ可能ですので、その魅力を体感してみてはいかがでしょうか。

あなたにとっての「ツーリズム」とは？

会長

後藤定幸（ごとうさだゆき）さん

花泉町油島在住。花泉町グリーンツーリズム推進協議会の顧問も務める。水稲農家であり、古代米を練り込んだ「しゃぶしゃぶ」用のおもちを開発、好評販売中。

事務局

松岡千賀子（まつおかちかこ）さん

一関市在住。平成25年から同会事務局員スタッフとして市内の農家を訪ね飛び回る。楽しさを練り込んだ企画を開発中。

- Photo

田舎の工場見学ツアー

市内や近隣地域の市民向けに開催し、好評を博している企画。市内の各種企業・工場などを見学する貴重な機会です。

おもてなしセミナー

海外からの来訪者も増えているため、受入れ農家向けに各種セミナーも開催。折り紙や巻き寿司なども喜ばれます。

皆が家族のような　支え合いの気持ちで

泉沢自治会

昭和 28 年発足。27 世帯 111 人が暮らす農村集落で、総務部、産業建設部、教育社会部、衛生部、体育部、婦人部、青年部の７部会を組織しています。

左の写真：「泉沢リサイクルステーション」（資源ごみ回収施設）を造る自治会の皆さん（平成 29 年）。

川﨑　泉沢自治会

故郷の暮らしを守る

「地域の主役は住民の皆さん一人ひとりさ。泉沢のような小さな集落では、全員が貴重な人材なんだよ」そう語るのは、泉沢自治会の自治会長を務めている金今達雄さんです。

金今さんは民間企業を退職後、4年ほど自治会役員を務め、平成29年の総会にて「地域の皆さんがサポートしてくださるのなら」という約束で自治会長を引き受けました。「自分には特別な能力も力もないし、皆さんの協力がなければ自治会は動かせない」と遜（へりくだ）りながらも、「地域の皆さんには子どもの頃から大変お世話になってきました。自治会長の任務は容易ではありませんが、皆さんのためなら全く苦ではありません」と故郷への想いを語ります。

今回はそんな金今さんに、泉沢自治会の特徴や活動、地域をまとめるために行っている日頃の工夫等についてお話を伺いました。

地域総出で人探し　有事の時は一致団結

同自治会は、国道２８４号線を挟んで川崎小学校の向かい側に位置し、平地（田んぼ）と山の高低差がある地形が特徴です。民家の多くは山の斜面に建ち、眼下に田園風景を眺められます。

自治会に住む方々は「金今」または「菊地」という2つの苗字が多く、外からの移住者はいないため、全ての家が昔から泉沢に所縁のある親類関係にあたるというので驚きです。

過去に「80代のおばあさんが家に戻らない」という行方不明事件が起きた時、動ける泉沢住民が総出で地域を捜索し、中には仕事を早退し捜索に当たったという若者も。「一刻も早い発見を」という強い気持ちやチームワークが功を奏し、警察よりも早く、行方不明だった方を山中で見つけ、無事に助け出すことができました。「あの時は皆で協力したものです」と当時を振り返る金今さ

gallery -

泉沢集会所

坂道の途中に建てられた集会所は、寄付金、千厩川堤防の草刈りの受託収益金、助成金の３つを活用し平成に入ってから建設。

美しい農村風景

集会所から眺めた景色。昔は畑仕事の様子や山仕事をする人の往来、散歩する方など、人の動きがよく目に入ったそうです。

ん。「泉沢自治会はまとまりがある」と自他共に認めるように、まるで皆が大きな家族であるような、温かい絆を感じさせるエピソードでした。

日頃からのささやかな気遣いを大切に

特に盛り上がる自治会行事は、毎年8月13日に行う「夏祭り」です。企画・運営は青年部が担当。いかぽっぽ、焼き鳥、わたあめ（子どもは無料）といった屋台が並ぶほか、生ビール飲み放題（無くなりしだい終了）や利き酒大会、スイカの早食い競争、ビンゴなど、大人が楽しむための企画も充実。この日は他地区からも子ども達が集まり、地域が賑やかな声で包まれます。

「いちのせき元気な地域おこし事業」を活用して始めた泉沢河川公園の春のライトアップ・冬のイルミネーション事業は今年が4年目。夜に輝く幻想的な光に魅せられ、自治会外の方も足を運ぶそうです。

青年部には20～30代の若年層も含め、幅広い年代の方が参加。公園のライトアップ事業は自治会長ではなく地域の方の提案で進めるなど、心強い地域の方に支えられている同自治会の運営。人口が少ないため個々の負担が大きくなってしまう状況もありますが、できるだけ負担が偏らないよう分担したり、集まるごとに労いの気持ちを込めて飲み物やアイスを用意するなど、日頃からのささやかな気遣いを大切にしています。

参加・協力を促すコツと雰囲気づくり

小規模な自治会だからこそ、日頃の活動を通して住民一人ひとりの協力の大きさを感じている金今さん。

自治会長から「今度頼むよ」「お願いしますね」というひと声をかけることで、自分が必要とされているという認識や、プレッシャーを与えない程度の責任を感じてもらうことができ、参加を促す方法の一つとして意識して実践しているそうです。

上から目線のトップダウンは禁物ですが、かといってボトムアップも難しい時は間に入って調整したり、応援することも大事な役割。それでも協力が足りない時は、自治会長就任時の約束を持ち出したり、「それならもう自治会長を辞めようかな」と冗談交じりにあえて突き放すような言い方で周りを動かすことも。時にはお世話役、時には助けられ役、時には責任者など様々な存在である自治会長さん。金今さんのお人柄と住民皆さんの強い支え合い精神で、これからもまとまりの良い泉沢自治会が続いていくことでしょう。

Q.集落の自慢はなんですか？

自治会長

かねこんたつお
金今達雄さん

会長歴：2期3年目
退職後、自治会役員を4年ほど務め、平成29年度から自治会長に。
A．泉沢は場所も人柄も最高で住んで良い所です。

近隣の友人

かねこんかずお
金今壽男さん

市外でのお仕事を退職し、最近泉沢に戻ってきたばかり。達雄さんが頼りにしている方の一人。
A．ひと声かければ皆が集まるまとまりのある地域。

- Photo

3年連続で最優秀賞

集会所前にある花壇は、「花いっぱいコンクール」フラワーロード部門 地域の部で平成28年度から連続で最優秀賞を受賞しています。

幻想的空間で癒しを

今年の千厩川堤防のライトアップは4月13日～27日までの約2週間。初日にはおしるこ等が振る舞われ盛況に行われました。

企業紹介

藤沢

株式会社丸光製麺（まるみつ）

昭和 33 年に創業した株式会社丸光製麺（代表取締役社長 熊谷茂さん）は、宮城県気仙沼市に本社を置き、「気仙沼の家庭には丸光製麺の麺が常に買い置きされている」と言われるほど地域に密着した気仙沼市唯一の製麺店でした。平成 23 年の東日本大震災の津波によって本社工場は壊滅的被害を受けますが、震災の翌年には縁あって一関市藤沢町に工場を再建し、親子三代にわたるこだわりの製麺業を復活させることができました。

これまでの 50 年、これからの 50 年

多くのファンに支えられ再出発を果たす

株式会社丸光製麺は、うどん・そばを中心に生麺にこだわりを持った製麺店で、麺に付属している天ぷらやスープなども同社で製造しています。

そんな同社に転機が訪れたのは東日本大震災です。多くの得意先を失い「一時は廃業という言葉も頭を過（よぎ）りました」と言う専務取締役の熊谷敬子さんですが、「もう一度丸光の麺を食べたい！」というお客さんの声に励まされ、代表取締役社長であるご主人と共に「とにかく一歩ずつでも事業を立て直そう」と、地元気仙沼市での再建に向けて動き出します。しかし、新しい土地の取得と工場建設に3億円以上もの費用がかかるという見積もりが示され、再建への壁になります。

そんな時、気仙沼市出身で一関市在住の知人から「地元に牛乳加工工場の施設が空いているようだ」という情報を得ます。元々同社の営業は岩手県住田町から宮城県仙台市までの三陸沿岸が中心で、内陸への進出はほぼありませんでしたが、藁（わら）にも縋（すが）る思いで施設管理元へ連絡。さっそく現地を確認してみると、水も電気も通っており、建物がちゃんとあるという嬉しさに加え、『ぜひこの建物を使ってください』と他県で起業した私達を快く迎え入れてくれる一関市の優しさにも惹かれました」と、2人は一関市での再建を決意します。

「再建場所は見つかったが機械設備がない。お金がないから買うこともできない」新たな局面に立たされた同社は、ミュージックセキュリティーズ（株）の被災地応援ファンド（※）と出会います。「親戚や友人ならいざ知らず、全く知らない会社に対して1万円でも出資しようという人がいるとは思えませんでした」と語る敬子さんですが、日本全国、精力的なプレゼン活動を通し「丸光を復活させたい！」という力強い思いが伝わり、比較的早い段階で目標額を達成しました。

集まった資金を基に設備を整え、なんと震災翌年に藤沢工場が誕生。「地元の方々、知人、ファンドの出資者など、多くの丸光ファンに支えられ工場を再開することができました。平成24年11月は、丸光製麺〝第二の創業日〟。次の50年に向けて、これまで通り『こだわりの麺』を提供していきたいです」と敬子さんは語ります。

（※）東日本大震災の被災から立ち上がろうとする事業者を、出資を通じて応援する仕組み。インターネットを窓口とし、一口一万円という小額から出資できます。

元気な母ちゃん、今日も港町を走ります

「家娘と間違われるけれど、嫁です」生まれ育ちが東京である敬子さんは、自らを「チャキチャキの江戸っ子」と称し、「やりたいことをまっすぐ突き進むタイプ」と分析。無類の魚好きが高じて20年前に気仙沼市へ嫁ぎ、震災後はたった一人の営業担当として全国を駆け巡っています。

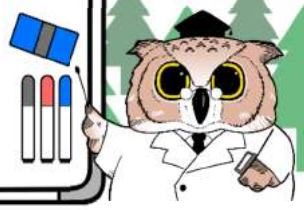
「今後はうどんやそば、スープなどの製造に加え、一関市ならではの食材を用いた商品開発に力を注いでいきたいです」と抱負を語ってくださいました。

1 商品開発もこなす専務の熊谷敬子さん
2 「気仙沼海鮮ふかひれ生ラーメン」第 11 回みやぎものづくり大賞 優秀賞
3 現在従業員募集中。同社まで要問合せ

DATA
〒029-3405
一関市藤沢町藤沢字榴 114-92
TEL：0191-61-1022
HP：http://www.marumitsu-seimen.com

今月のテーマ

いま、なぜまちづくりなのか？



博識杜のフクロウ博士

時代により変わる「まちづくり」の考え方

いつの時代も**「まちづくり」**という言葉が使われてきましたが、「一体いつになったらゴールするの？」と疑問に感じるのは私だけでしょうか？「まちづくりにゴールも正解も間違いも、成功も失敗もない！」とはよく言われますが、これはおそらく広義的な考えであり、もう少しかみ砕いて考えるとわかりやすいのではないかと思います。

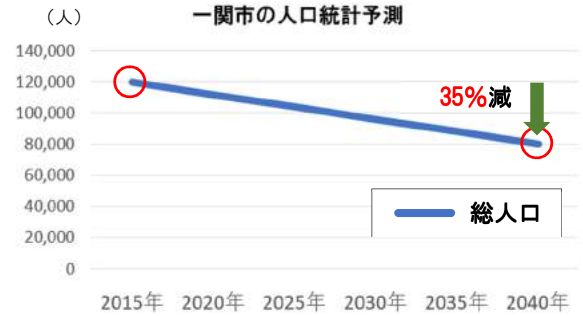
「まちづくり」がいつまでもゴールを迎えずに叫ばれ続けるのは、**時代背景により「まちづくり」という言葉が指す意味が異なる**ことが原因ではないでしょうか？今から 50 年ほど前は都市計画が盛んな時代で、まちづくりといえばハード事業など都市整備を指すことが主でした。都市整備のまちづくりの時代は、都市に人口が集中し経済活動も発展しましたが、地方では人口流出による担い手減少や大型店舗の郊外進出などにより、中心市街地をはじめとする地元商店などの衰退という現象が始まり、今から 15 年ほど前の時代は、「**中心市街地活性化**」という言葉がブームに。まちづくりという言葉が指すものは、都市整備ではなくそこに賑わいを取り戻すことを指すようになったのです。そして年号が切り替わった今、私たちが抱えている課題は何か？といえば、**少子高齢化**や**人口減少による社会構造の変化**であり、課題が変わったことでまたしても「まちづくり」が指すものは変容しました。

現代がもつ「まちづくり」の意味と人口減少

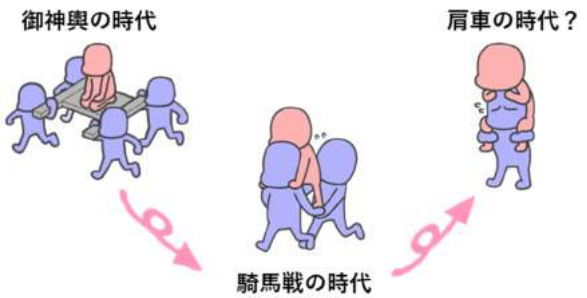
「少子高齢化」とは「少子化」と「高齢化」が同時並行的に進んでいる状態です。出生率の低下により子どもの数が減ると同時に、平均寿命の延びにより、人口全体に占める 65 歳以上の高齢者の割合が高まっていることが背景にあります。よく耳にする**「2030 年問題」**とは、2030 年には**人口の 3 分の 1 が高齢者になる**といわれており、それに伴い生じるさまざまな課題のことを指します。将来人口推計を見てみると、ある自治体においては生産人口よりも高齢者人口の方が多くなり、**支えるバランスが崩れてしまう**ことが予測されています。このことから考えられる現代の「まちづくり」の持つ意味は、**「将来への備え」**です。

少子高齢化による人口減少は**人が減るという自然現象であり、直接的な課題ではありません。**人口減少による課題は、地域運営が困難になるということです。人が多かった時代に築き上げた私たちの地域コミュニティを、人が少なくなった状態でどう維持していくのか？人が少なくても運営できる地域に見直しをかけていかなければいけないのです。

一関市の人口は減少傾向にあり、下記の人口統計予測によれば、今から 21 年後の 2040 年には**減少率が 35%**にも及ぶと予測されています。人口構成も、**高齢者数が労働人口の倍**になるという状況です。現在、**2 人で 1 人を支える時代**から、これからは**1 人で 1 人を支える時代**になるということです。これは予測ですので、絶対こうなるというものではありません。しかし、人口が減ることは避けて通れない状況であることを受け止めておく必要があります。



出典：国立社会保障・人口問題研究所



センターの自由研究

ミッション33

「巨樹」探訪 vol.1

樹齢約2700年と言われる屋久島の縄文杉。その太さは16mを超えるそうです。そこまでの巨樹には到底お目にかかれないとしても、生命力あふれる巨樹に対面してみたい！ということで、市内各地の巨樹を探訪してきました（３回シリーズを予定）。

※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。多少の誤差や調査漏れ、順位の変動等はお許しください。

調査の流れと経過

当初**「市内で一番太い木」**を探し出すことを目指していた我々。各地域担当者が、自分の担当地域の情報を集め（聞き込みや文献調査等）、「これは１位の座を狙えるのでは!?」と思われる巨樹を訪問。巨樹たちの存在感に圧倒されながら、「目通り周」と呼ばれる高さ（地上から１３０㎝地点）を実測してきました。

そして迎えた順位決めの時。いざ調査結果を並べてみると、気になることが。かたや樹齢千年級の木があれば、樹齢４００年程でランクインしている木も。また、種類にも偏りがあることが見えてきました。

もしかすると、**木の種類を無視した単純な「太さ」だけで、順位をつけることは「ナンセンス」なのではないか……。**

そこで改めて、樹木そのものの特性も加味しながら、単純な「太さ」では１位を狙えなくても、**それぞれの種類の中では1位を狙えそうな木**にも視野を広げ、総合的なランキングを作ってみたところ、驚きの結果が出てきたのです！

▲実際の調査の様子。メジャーを片手にヒアリング&実測！

太さ日本一を発見か!?

総合的なランキングは次ページに表としてまとめました。順位とともに注目していただきたいのが、「種類別にみた全国順位予想」の部分です。この部分は、環境省が出している「巨樹・巨木林データベース」というＷＥＢサイトを元に予想した順位です（該当樹木の樹種名と目通り周を入力すると、その種類の中で該当樹木より太い木が全国に何本あるのかが分かる）。

例えば**当市では総合1位となった真湯のカツラは、全国の同種の中で見ると１００位**レベル。同様に多数ランクインした杉に関しても、杉の巨樹は全国的にも多数あるため、市内で最も太い杉である興田神社の杉をもってしても、全国で見ると残念ながら順位付けが難しいレベルなのです。ところが、**９位にランクインした田茂木（室根）のイトヒバは、全国の同種の中で見ると1位**かもしれないということが判明！

そして今回**「巨樹」を念頭にしてしまったため、マツなど、長寿になっても太さがあまりでない木が、完全に調査から抜け落ちてしまっている**ことに気づきました。もしかしたら隠れたすごい木があるかもしれない!?そこで読者のみなさんに情報を求めます！

▲杉部門では市内１位でも総合順位では市内４位の興田神社の杉（7.86m）

調査してみてわかったこと

■樹齢＝太さではない

樹齢を重ねても太さがでない種類の木があったり、同じ樹齢でも生育環境によって成長度合いに差が生じる。

■本来は太さがでない木でも巨樹になることあり

カツラなど、特異な性質をもつ木がある（次ページ参照）

求む！長寿のマツ情報！

マツ科、ヤナギ科など、幹周２ｍ以上で巨樹といえる種類の木は多数。今回はマツに焦点を絞り、**地域の「長寿松」の情報をお寄せください！調査にうかがい、内容によってはシリーズの３回目でご紹介します。**

― 市内の巨樹・目通り周ランキング ―

順位	名称	太さ	推定樹齢	地域	種類別にみた全国順位予想
1	真湯のカツラ	11m	1000年以上	厳美	トップ100以内
2	箒カヤ	9.5m	700年以上	猿沢	トップ10以内
3	小日形のイチョウ	8.35m	約500年	藤沢	太さはトップ200以内 (樹高は太さの1位より高い)
4	興田神社の杉	7.86m	1000年以上	興田	杉でこのレベルは 多数存在
5	神中のカツラ	7.44m	約350年	小梨	トップ250以内
6	配志和神社の夫婦杉	7.18m	1000年以上	山目	杉でこのレベルは 多数存在
7	山吹城址のイチョウ	7m	約450年	大原	トップ300以内
8	田茂木のイトヒバ	6.88m	350年以上	室根	トップレベル 全国1位の可能性あり
9	夫婦カヤ	6.4m	500年以上	大原	トップ40以内
10	真湯のケヤキ	6.3m	約1500年	厳美	トップ500以内
11	御袋神社の杉	5.94m	不明	室根	杉でこのレベルは 多数存在
12	種蒔桜(エドヒガン)	5.1m	約400年	奥玉	トップ100以内
13	田ノ萱のイチョウ	5.1m	300年以上	田河津	イチョウでこのレベルは 多数存在
14	天神角のサイカチ	約5m	400年以上	永井	トップ20以内
15	大門神社の杉	4.8m	1200年以上	金沢	杉でこのレベルは 多数存在

1

2

3

▲真湯のカツラ(1、3)と小日形のイチョウ(2)。小日形のイチョウは太さでは全国トップ200レベルですが、45mを超す樹高は全国的に見てもかなり高く、樹高では全国30位以内の可能性も！

PICK UP

修復をくり返すカツラと伸びしろたっぷりのイチョウ

市内では一番の巨樹となった真湯のカツラ。**本来カツラは直径1m程度**で、**大きくなると幹割れを起こす**のだとか。ところが、**萌芽性(ほうがせい)が極めて高い**ため、幹の根元で控えている「萌芽幹」というものが、樹冠から到達する光を利用して急速に成長。やがて、空いた空間を占有し、修復！それをくり返す結果、株は巨大化し、**多数の樹幹からなる個体を形成**することがあり、そのようなカツラは「千本カツラ」と呼ばれ、真湯のカツラもまさにそのタイプのようです(6位の「神中のカツラ」は少し違う様相のため、追跡調査をし、シリーズ3回目でご紹介する予定)。ちなみに全国でトップクラスのカツラの木は目通り直径20mにも及ぶそうです。

イチョウは15位以内に3本ランクインしていますが、今後さらなる巨樹化＆長寿を狙える可能性が！というのも、**イチョウは世界的に見ると千年を超すことが珍しくない長寿**で知られているそうですが、**日本においては渡来して実はまだ千年あまり**。なので今後長寿事例が増えていくでしょうし、今回ご紹介したイチョウたちもまだまだ伸びしろがある可能性が高いのです。わずか300～400年でここまで大きくなったイチョウたち。樹齢千年の頃にはどうなっていることか……タイムスリップして見てみたいものです。

来月は… **種類別に全国比較した結果、かなり上位にランクインしそうな巨樹たちをご紹介します！**

おしらせ

イベント

H31 学びの里「新緑ヨガ＆ブナ森カフェ」

厳美地区には、骨寺村荘園遺跡や真湯など、豊かな文化や自然が数多く残されています。今回は新緑まぶしい遺跡内の広場を会場にヨガを行い、午後は真湯のブナ林の中をウォーキングしたり、野外で珈琲を楽しみます。

日時：令和1年5月18日(土)10時～
場所：骨寺村荘園交流館ほか
参加料：1，100円(昼食・おやつ代)
募集人数：20名(最少実施人数5名)
申込締切：5月15日(水)
※定員になり次第締め切ります。
主催：骨寺村荘園交流館
問合・申込：0191-33-5022

公演

民族歌舞団ほうねん座 一関公演

「ほうねん座」は宮城県で誕生し、民俗芸能で舞台作品を製作し上演や講座活動を行う集団です。お祭り囃子や創作の和太鼓の曲、おめでたい予祝の芸能など、老若男女が楽しめる元気が出るお祭り舞台です。

日時：令和1年5月18日(土)
15時開演(30分前開場)
場所：一関市総合体育館ユードーム
料金：大人 2，000円
高校生以下 1，000円
未就学児無料
主催：一関ほうねん座を観る会
問合：022-399-2842
(民族歌舞団ほうねん座)

視察

景観・まちづくり視察「塩竈ウォーク」

塩竈市は歴史的価値の高い建物を文化的資源として修繕し保存活用しているまちです。「勝画楼」「旧えびや旅館」「塩竈公民館本町分室講堂」などまちづくりの参考となる場所を視察します。

日時：令和1年5月19日(日)
11時出発 18時30分解散
場所：旧達古袋小学校 発着
参加費：大人3，000円、高校生まで500円
(バス代、昼食代等含む)
定員：30名 ※定員になり次第締め切り
主催：NPO法人
一関のなかなか遺産を考える会
申込：0191-29-2511

講座

ファシリテーション基礎講座

良い活動・良い組織には、良い「話し合いの場」が必要不可欠です。意見を引き出し・整理をして着地点を導き出し、合意形成する「ファシリテーション」は、ワークショップだけでなく普段の仕事や団体活動、家庭の中でも活かすことができます。

日時：令和1年5月25日(土)
10時～17時
場所：なのはなプラザ4階
受講料：2，000円
申込締切：5月17日(金)
主催：いちのせき市民活動センター
申込・問合：0191-26-6400

募集

野外災害救急法体験ワークショップ

野外で人を助ける技術を学びます。一般的な救急法とは違い、救急搬送できない環境を前提とした実践的な内容で、傷病処置の優先順位や看護・搬送を視野に入れた行動を学びます。

日時：令和1年6月8日(土)
第1回 10時～12時 第2回 13時～15時
場所：祭畤災害遺構(旧祭畤大橋)周辺
料金：4，000円
(テキスト代として別途1，000円)
申込：右記QRコードまで
主催：日本空糸株式会社
問合：0191-48-4046

登録

いちのせき市民活動センター LINE登録のご案内

いちのせき市民活動センターが行う講座やイベント情報などを、スマートフォン専用アプリ「LINE」で随時配信しています。下記QRコードを読み取ると、友だち登録画面が表示されます。どなたでもお気軽にご登録よろしくお願いします。
※登録・利用料は無料です。

問合：0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター)

まちの写真展

スタッフがまちの１コマを切り取ります。

作品名「タイムリーすぎる牧草ロール」

花泉の老松市民センター付近を走行中に思わず二度見してしまった牧草ロール。牧草ロールへの文字アートは各地で見かけるようになりましたが、新元号の周知に使われるとは！その活用の可能性を感じさせられた風景でした。

Q&A

みなさんの「知りたい」にスタッフが応えます。

「認定NPO法人」とは何ですか？

NPO法人のうち、その運営組織及び事業活動が適正であって公益の増進に資するものにつき一定の基準に適合したものとして、所轄庁の認定を受けたNPO法人のことです。NPO法人への**寄付を促すこと**を目的にしており、認定NPO法人になるとNPO法人にはない**税制優遇**が適用されます。

idea
発行 いちのせき市民活動センター 〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415 ホームページ：https://www.center-i.org/ メール：center-i@tempo.ocn.ne.jp
せんまやサテライト 〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736